

【ファシリテーターの活動状況】

第 6 回地域包括ケア専門職“絆研修②在宅療養中「生活支援」

- 日時 令和 3 年 10 月 3 日(日) 9:15~12:15
- 場所 オンライン(Zoom)研修
- ◎ 研修総参加者 69 名 : 8 グループ
- ◎ ファシリテーター 8 名
- ◎ プレゼンター 3 名
- ◎ 研修支援(記録等) 8 名

※令和 3 年度第 6 回地域包括ケア専門職による多職種研修会シリーズ②について、完全オンラインで開催しました。ファシリテーター、プレゼンターをはじめ研修支援スタッフが、3 回のスタッフ打合せ会で事前準備を行い、研修にのぞみました。



【プレゼンテーション】

- ◆地域包括ケアシステム・在宅医療介護連携推進事業(東部医師会在宅医療介護連携推進室 多賀博則)
- ◆アイスブレイク(研修統括ディレクター 足立誠司医師:鳥取市立病院)
- ◆生活支援とサービス担当者会議・グループワーク①(中瀬 香里 MSW:ウェルフェア北園渡辺病院)
- ◆ACP 等・グループワーク②・まとめ(研修統括ディレクター 足立誠司医師)



在宅スタッフの思い	
かかりつけ医	通院が困難となったため、定期訪問診療へ変更した。認知機能やADLが低下し、最近では嚥下機能障害も出現している。本人や家族は、まだ回復すると期待しているが、実際は心不全もあり、病状が進行しているため、急変時の対応を含めた今後の過ごし方について話し合いをした方がよい。
訪問看護師	食事量の低下があり、体重減少が気になる。栄養状態の改善はどうか。本人は再入院を嫌がっているが、誤嚥性肺炎の危険性がある。急変時の話し合いをかかりつけ医にもらったほうがよいかもしれない。
歯科医師	訪問歯科診療を行い、摂食嚥下機能改善を期待し義歯調整を試みている。しかし認知機能低下や衰弱に伴う嚥下機能低下があり、今後、安全な食事摂取が難しくなるだろう。口腔ケアなどを中心とした対応が望ましい。
歯科衛生士	訪問看護師と連携し、口腔内の保湿、保湿管理について妻へ指導して、妻の対応でおおむね問題ない。妻は食べさせたいと思っているが、どこまで病状、嚥下障害を理解できているだろうか。今後のことを話す機会が必要ではないか。



第3章「もしもの時は」わたしの心づもり (ステップ3：人生の終活を考えた時)



ステップ3のすすめ方

- 利用者**
 - ステップ3を読んで、ご自身の考えを整理しましょう。「わたしの心づもり」の内容を確認しましょう。
- 信頼できる人**
 - あなたの信頼できる人と一緒にステップ3について話し合いましょう。「わたしの心づもり」の内容を確認しましょう。
- 医療・介護関係者**
 - 医師・介護関係者、あなたの信頼できる人と一緒に「ステップ3」について話し合いましょう。



【ファシリテーター】

◆ブレイクアウトルームでのグループワークの進行、記録

【スタッフ振り返りより】

良くできたと思うこと、このままやっっていこうと思うこと

【ファシリテーター】

- ・発表者に対し、こちらから予め発表の様子を伝えていたので、緊張もされる事なく発表されていた。
- ・研修生に時間説明を行い、ワーク終了 5 分前にはお知らせし、まとめ時間を作った。
- ・グループの人数・状況に合わせて進行の役割に対応できた。
- ・意見を広げる、くみ取る、深めることを意識しながら声掛けを行えた。
- ・話し合いが止まった際には、違う視点からの意見を求める、違う立場の方からの発言を促すなど、一つの視点からだけでなく他の視点からの意見が出るよう配慮できた。
- ・グループの雰囲気や和らげるような言葉かけをするよう心がけることで、参加者の緊張も和らいだように感じた。議論の邪魔にならないよう気をつけつつ、まとめができるよう声をかけることができた。

【プレゼンター】

- ・パワポのスライドの棒読みにならないよう、自分なりの言葉や考えを交えながらプレゼンを行なった。
- ・(導入で)聴き手との双方向を意識したこと

今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

【ファシリテーター】

- ・司会・発表者の立候補がない場合の決め方に工夫がいると思った。グループワーク②ではファシリからの「問いかけ」に工夫がいると思った(意見が単調にならないように)
- ・司会、発表者の選出、自発的な候補を募ったが、立候補はなく、受講経験者、アイスブレイキング時の発言の印象から司会・発表者をファシリテーターが推薦した。選出方法を次回は考慮したい。
- ・オンラインなので、対面と違って、場の雰囲気や皆が汲み取りにくいところもあるので、そのあたりの配慮ができるようになりたい。
- ・アイスブレイキングの際に時間があまり、グループ内の交流が活発になるよう工夫が必要。
- ・少し発言が行き詰ったときにも、言葉が引き出せるような話の流れをつくるための効果的な声かけができるよう工夫したい。
- ・ワークの時間を早め早めに進めようとしてしまった。グループでの討議を深めていくファシリテートを行っていきようにしたい。
- ・アイスブレイク時、場の雰囲気づくりをもう少し努力しようと思います。
- ・意見を広げるための声かけや工夫ができるようになりたいです。
- ・司会や発表が決まらないときに提案できるような案を事前に考えておきたいと思います。

【プレゼンター】

- ・参加者からの発表のあてかたや順番が工夫できれば、出てくる発表の意見が深まりやすいと感じた。双方向を少し取り入れてみたが、もう少し深められたら・・・と思います。
- ・時間管理のため、プレゼン動画を作成したが、自分自身の長所を活かし切れなかった。機会があればもう一度チャレンジしたい。

研修参加者にとってよかったこと

- ・遠方からもオンラインで参加できただけでなく、グループワークも適切に行えた事
- ・グループワークを静かな環境で行え、グループワークに集中できた。
- ・ファシリ、記録を含めて5名だったので、一人ひとりにたくさん発言してもらうことが出来た。
- ・顔もよく見えて、身振りも大きくしてくださったので、発言者の思いを共有しながら進めることが出来た。
- ・皆さんが自分ごととして考えることが出来た、今後実践していきたいと言われていた。
- ・グループの人数が4~5名程度となっており、一人一人発言する時間が確保できていた。
- ・画面共有で全員の発言した内容を把握することができた。参加した同じ事業所のスタッフからも好評でした。
- ・ネット環境さえ整えれば自宅から参加できること。
- ・リモートでのGWでは、ひとり一人がGメンバーの発言をよりしっかりと聞けたように感じた。
- ・人数が適切で、発言もたくさんできて考察も深まったと思う。

研修参加者にとって良くなかったこと

- ・全体的には悪いところはないと思いますが、あえてあげるなら、名刺交換や研修会後の雑談ができないこと。
- ・会場での研修と比べて、多くの方と顔を合わせることができないこと
- ・ネット環境を整えていない、パソコン操作が苦手な方は参加しにくくなっていること

スタッフの感想・意見

- ・初めてづくしで不安だったが、事務局の方や他のスタッフの方に支えていただきながら進めることができた。
- ・司会として直接グループワークに参加させていただいたことで、自分も学ばせていただきました。
- ・思ったより楽しかったです。記録の方と2名体制で出来たことが良かったです。
- ・今後しばらくリモート研修が続くと思われるので、魅力ある研修になるよう努めたい。

